

2. 「県内河川水および底質の化学物質汚染実態調査」

県内主要河川の流末（11 地点）において水質，底質を対象として環境省の底質モニタリング調査物質（20 物質）の調査をしたところ次のことが明らかとなった。

河川水からは，リン酸トリブチルが濁川（0.03ng/ml：第一回）および宮川（0.06ng/ml：第二回）の 2 河川より検出された。検出濃度は全国の底質モニタリング調査¹⁾の値（以下，全国値）の範囲内であった。

底質からは，リン酸トリブチル， α -HCH および γ -HCH の 3 物質が検出された。リン酸トリブチルは平等川（2ng/g・dry）で検出された。 α -HCH は平等川（1ng/g・dry）で， γ -HCH は黒沢川（1ng/g・dry）で検出された。底質から検出された物質の濃度は，全国値の範囲内であった。

今回検出された物質は比較的低濃度ではあるものの，残留性のある化学物質であることから，検出された河川については精密な再調査を行う必要があると考えられた。

1): 環境庁“化学物質と環境（1994～2002 年度）”より

水質測定結果



底質測定結果

